香川県
侵略的外来種
防除指針

防除に取り組むべき外来種

セアカゴケグモ

国：緊急対策外来種
日本ﾜｰｽﾄ 100
県：緊急対策外来種

被　害

■在来の生態系への影響

・セアカゴケグモは、日本の生態系に重大な影響を及ぼす恐れのある生物として、外来生物法により「特定外来生物」に指定されています。

・セアカゴケグモは毒をもっています。攻撃性はなくおとなしいクモですが、メスに触ると咬まれることがあります。素手では触らないでください!!

実際の大きさ(メス)

特　徴

■大きさ　メス約 10mm　オス 3～5mm

■腹部の背中と腹面に赤い模様があります。

■“卵のう”という約 100 個の卵が入った袋をつくり、幼体が増えていきます。

生育場所

■市街地、沿岸部

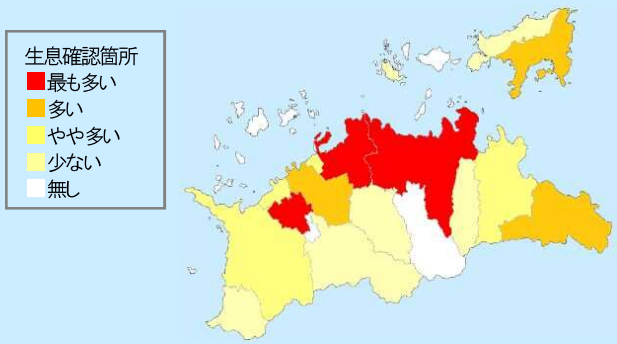
・生物多様性の低い市街地で発生しやすい傾向にあります。

・日当たりが良い場所や暖かい場所にある湿気のある物陰や隙間に巣をつくります。

■具体的な場所

・排水溝の内部や網蓋のすき間
・フェンスの基部
・屋外水道
・花壇のブロックの内部
・墓石のすき間
・自動販売機やエアコンの室外機などの機器と壁とのすき間 など

分布状況



原産地域：オーストラリア
↓ 建築資材などに紛れ込んで侵入（推定）
1995 年：大阪府で見つかる（国内初記録）
↓
2009 年：香川県で見つかる
↓ 県内各地での定着が見られる

多発地域の沿岸部にお住いの方はご注意ください

2023 年 3 月時点：県内では 8 市 8 町に分布
（全国では、45 都道府県で発見されている）

裏面をご覧ください

被害対策　**防除対策**　**予防対策**

被害対策

防除対策

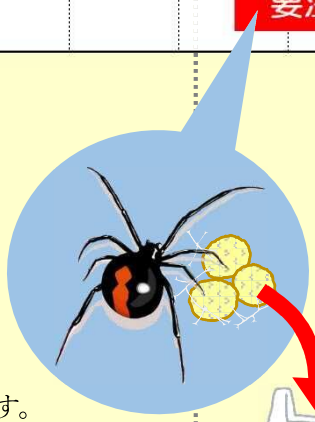
■生活史

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
活動低下期					活動活発期（8月下旬に成体になる）			卵のうが見られる時期（産卵は8月下旬～10月頃がピーク）			
								要注意期（♀親が卵を守るために咬む）			

■咬まれたら（症状）

・咬まれると針で刺されたような痛みを感じ、その後、咬まれた場所が腫れたりします。

・重症化することはまれですが、痛みが全身に広がることもあります。

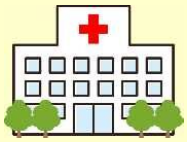


■対策（処置）

・傷口を水で洗い、患部を冷やし、できるだけ早く、医療機関を受診ください。

・重症化した場合は、抗毒素血清の投与が効果的です。

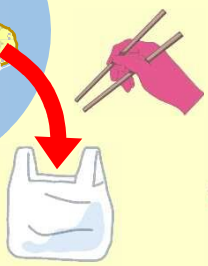
・咬まれた**クモの画像**を医療機関に持参ください。適切な治療につながります。



（補足）日本では死亡例はありません。

■見つけたら
（自主的な駆除にご協力ください！）

そのまま放置してしまうと、繁殖してしまう危険性がありますので、見つけ次第、駆除することが大切です。



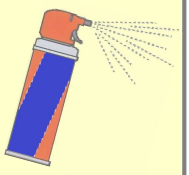
■駆除の準備

駆除作業をするときは、肌を出さないような服装で、必ず手袋をしてください。

■成体・幼体の駆除

市販の殺虫剤（ピレスロイド系）を噴霧するか、靴で踏みつぶして駆除してください。

※動かなくなっても死んでいない場合もあるので、素手で触らないように。



■卵のう駆除

卵のう（卵の入ったふくろ）は，割りばしでクモの巣ごとからめ取り、その場で焼却するかビニール袋に入れて完全に踏みつぶしてください。（卵には殺虫剤の効果が薄い。）

■周辺の確認

駆除後は、同じようなクモが発見場所の**周りにいないか確認**してください。殺虫剤を噴霧すると、隠れていたクモを確認することができます。

■対策（発見時）

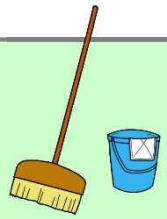
セアカゴケグモと疑わしい種の場合、背中・腹部がわかる**画像（ピントが合ったもの）**にてお住まいの市町または、県みどり保全課にお問い合わせください。

《連絡先》
香川県環境森林部 みどり保全課
電話：０８７－８３２－３２２７
E-mail：midorihozen@pref.kagawa.lg.jp

予防対策

■天敵（寄生性のハチやハエ、他のクモなど）が発生しやすい、生物多様性の保全を目指しましょう。

■身近な場所で生息しそうな場所があれば、**定期的に点検・清掃**することで、発生しにくい環境づくりを行ってください。



発行／香川県環境森林部みどり保全課　企画・編集／特定非営利活動法人みんなでつくる自然史博物館・香川